

希少植物(絶滅危惧種)

チョウジソウ(丁字草)



花の形が横から見ると「丁」の字に見えることから命名されました。リンドウ目キョウチクトウ科 宿根草でやや湿った草地に自生。花期5月～6月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省準絶滅危惧

ヌカボタテ(糠穂蔞)



「糠穂」は田の畦などに生えるイネ科の植物のこと。本種は、茎や葉が細く、花も小さいので、見過ごしてしまいそうです。花期9月～11月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類、環境省絶滅危惧Ⅱ類

ヌマゼリ(沼芹)



池や沼など水辺の湿地に生えるゼリ科の多年草。別名「サウゼリ」とも言います。見頃8月～10月。宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ハタベカンガレイ(端辺寒枯藺)



湧水の見られる河川などに生えるカヤツリグサ科の多年草。冬に枯れた枝が残るイグサに似た植物という意味です。「端辺」は熊本県阿蘇山北外輪山地域のこと。宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ヒメシロアサザ(姫白浅沙)



ミツガシワ科の多年草で湖沼やため池、水田などに生息する水草。本州以西に分布。田んぼの雑草でやっかいもの扱いされる地域もあるそうです。花期7月～9月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類

マツカサスキ(松穂薄)



カヤツリグサ科の多年草。花穂がマツカサに見えるところから命名。本州から九州にかけて分布。草丈は1mから1.5m程度で湿地や河川敷などで育ちます。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類

ミスオオバコ(水大葉子)



池沼・水田・小川などに生えるトチカガミ科の一年草。葉の形がオオバコに似ているところから命名。水草としての人気が高く、市販されています。見頃7月～9月。宮崎県準絶滅危惧 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ミスネコノオ(水猫の尾)



湿地や水田などに生息するシソ科の一年草。関東以西に広く分布。茎が多数枝分かれし、先端に長さ2～6cmほどの直立する穂状の花をつけます。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 環境省準絶滅危惧Ⅱ類

ミズマツバ(水松葉)



本州から沖縄に広く分布するミソハギ科の一年草。水田を好んで生育します。茎が地面を這い、枝分かれして3cmから10cmの高さに生長。花期8月～10月 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ミソコウジュ(溝香薷)



湿っぽい田の畦などに生えるシソ科の越年草。別名はコキミソウ。乾かしたものは漢方で「香薷」と呼んで、解熱剤などに用います。環境省準絶滅危惧